



サッカー本大賞

—良質なサッカー書籍が、
日本のサッカー文化を豊かにする—

■授賞式オンライン配信のご案内

第9回となる「サッカー本大賞 2022」授賞式は4/4（月）19：30よりオンライン配信で行います。視聴は下記、カンゼンのyoutubeチャンネルよりどなたでもご覧になれます。

本賞では、2021年度（1/1～12/31）に発売されたサッカー本（実用書、漫画をのぞく）すべてを対象に選考委員によって決定されます。ぜひ一緒に受賞作品の発表をお祝いいただけますと幸いです。

■放送日時

4/4（月）19：30～

■出演者

＜司会＞ 井上マー

栃木県出身。尾崎豊のモノマネでおなじみのお笑い芸人。

スポーツ全般に詳しく、特にサッカーは造詣が深い。引き立て役のプロフェッショナルとして定評が高く、DAZNのJリーグ中継やコナミ「ウイニングイレブン」の公式大会など数々の試合実況を務める。目標はUEFAチャンピオンズリーグの実況。

＜サッカー本大賞選考委員＞ （五十音順、敬称略）

金井真紀、佐山一郎、陣野俊史、幅允孝

※プロフィールは後述。

■視聴 URL

https://www.youtube.com/watch?v=z3C_6VBGOS8

■サッカー本大賞 2022 優秀作品

『旅する練習』(講談社)

乗代雄介 著

『予測不能のプレミアリーグ完全ガイド』(三栄書房)

内藤秀明 著、エルゴラッソ編集部 編

『フットボール新世代名将図鑑』(カンゼン)

結城康平 著

『カルチョメルカート劇場 世界一クレイジーな移籍市場の秘密をすべて教えよう』
(ソル・メディア)

"ジャンルカ・ディ・マルツィオ 著、片野道郎 訳

『いまさら誰にも聞けない サッカー隠語の基礎知識』(カンゼン)

サッカーネット用語辞典 著

『サムシングオレンジ THE ORANGE TOWN STORIES』(ニュース・ライン)

藤田雅史 著

『ディエゴを探して』(イースト・プレス)

藤坂ガルシア千鶴 著

『蹴日本紀行 47 都道府県フットボールのある風景』(エクスナレッジ)

宇都宮徹壺 著

『ディエゴ・マラドーナの真実 追悼・増補版』(ベースボール・マガジン社)

ジミー・バーンズ 著、宮川毅 訳

『"サッカー旅"を食べ尽くせ! すたすたぐるぐる 埼玉編』(西葛西出版)

OWL magazine 編著

『FC バイエルンの軌跡:ナチズムと戦ったサッカーの歴史』(白水社)

ディートリヒ・シュルツェ=マルメリング 著、中村修 訳

『ULTRAS (ウルTRAS) 世界最凶のゴール裏ジャーニー』(カンゼン)

ジェームス・モンタギュー 著、田邊雅之 訳

【サッカー本大賞とは】

良質なサッカー書籍が、日本のサッカー文化を豊かにする。

2014年（平成26年）に設立された、サッカーに関する書籍を対象にした文学賞です。

良い本はサッカーの見方を豊かにしてくれます。また、日本でサッカーがナンバー1スポーツになり、世界に誇れるサッカー文化を築いていくためには、高い志と情熱をもって作られた良質なサッカー書籍がもっともっと多く世に出て、多くの人に読まれて欲しいと思っています。サッカー本大賞の創設はそうした思いが出发点になっています。

■選考委員（五十音順、敬称略）

選考委員：金井真紀、佐山一郎、陣野俊史、幅允孝

■対象作品

毎年1月1日～12月31日までに発売されたサッカー本。ただし読み物に限る。いわゆる技法書、テクニク本は選考対象外。

【選考方法】

■1次選考

- ①選考委員が各自複数冊を推薦。（2021年度に刊行された書籍に限る）
- ②選考委員会で協議され、選考された書籍を優秀作品とする。

■大賞選考

第一次投票で選ばれた優秀作品に対して、選考委員が協議を行い、大賞が決定する（決定しない場合は再投票で決定）。大賞は授賞式で発表。

【受賞一覧】

- サッカー本大賞 選考委員の合議または投票によって決定します。
- 特別賞 選考委員の合議または投票によって決定します。
- 読者賞 WEBサイト『フットボールチャンネル』での読者投票が最も多かった書籍に贈られます。

【協賛・副賞提供】

猿田彦珈琲株式会社

コーヒーとサッカーをこよなく愛する珈琲屋、猿田彦珈琲様より副賞を提供していただきます。



選考委員プロフィール

金井真紀（かない・まき）

1974 年生まれ。文筆家・イラストレーター。任務は「多様性をおもしろがること」。著書に『世界はフムフムで満ちている』（皓星社）、『パリのすてきなおじさん』（柏書房）、『マル農のひと』（左右社）など。共著に『サッカーことばランド』（ころから）、『世界のおすもうさん』（岩波書店）、『戦争とバスタオル』（亜紀書房）ほか。雑誌『フットボール批評』で「世界サッカー狂図鑑」を連載中。好きなサッカー選手は松田直樹で、その背番号にちなみ銭湯の下駄箱は3番を使う。

佐山一郎（さやま・いちろう）

作家、編集者。アンディ・ウォーホルズ『Interview』誌と独占契約を結んでいた『Studio Voice』編集長を経て84年、独立。主著書に『東京ファッション・ビート』（新潮カラー文庫）、『「私立」の仕事』（筑摩書房）、『闘技場の人』（河出書房新社）、『サッカー細見 '98〜'99』（晶文社）、『デザインと人』（マーブルトロン）、『雑誌の人間』（リトル・モア）、『VAN から遠く離れて - 評伝石津謙介 -』（岩波書店）、『夢想するサッカー狂の書斎 - ぼくの採点表から -』（カンゼン）、『日本サッカー辛航紀 愛と憎しみの100年史』（光文社新書）。Instagram: @sayamabar

陣野俊史（じんの・としふみ）

1961 年生まれ。文芸評論家、フランス語圏文学者。長崎生まれ。現在、立教大学大学院特任教授。サッカー関連の著書に『フットボール・エクスポーション!』（白水社）、『フットボール都市論』（青土社）、『サッカーと人種差別』（文春新書）、翻訳書に『ジダン』（共訳、白水社）、『フリーガンの社会学』（共訳、文庫クセジュ）など。

幅 允孝（はば・よしたか）

有限会社 BACH（バッハ）代表。ブックディレクター。人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、学校、ホテル、オフィスなど様々な場所でライブラリーの制作をしている。最近の仕事として「早稲田大学 国際文学館（村上春樹ライブラリー）」での選書・配架、札幌市図書・情報館の立ち上げや、ロンドン・サンパウロ・ロサンゼルス の JAPAN HOUSE など。安藤忠雄氏の建築による「こども本の森 中之島」ではクリエイティブ・ディレクションを担当。早稲田大学文化構想学部非常勤講師。神奈川県教育委員会顧問。Instagram: @yoshitaka_haba

【本賞に関するお問い合わせ先】

（株）カンゼン サッカー本大賞実行委員：宇佐美光洋

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-7-1 開花ビル

TEL:03-5295-7723 FAX:03-5295-7725 MAIL: soccerbook_award@kanzen.jp

■これまでの受賞作品

2014年（第1回）
サッカー本大賞
近藤篤 著『ボールピープル』（文藝春秋）
翻訳サッカー本大賞
ジャンルカ・ヴィアリ、ガブリエル・マルコッティ著／田邊雅之 監修『理想のために戦うイングランド、現実のために戦うイタリア、そしてイタリア人と共に戦う日本人』（学研教育出版）
読者賞
近藤篤 著『ボールピープル』（文藝春秋）
2015年（第2回）
サッカー本大賞
中村慎太郎 著『サポーターをめぐる冒険 Jリーグを初観戦した結果、思わぬことになった』（ころから）
翻訳サッカー本大賞
ジョナサン・ウィルソン著／実川元子 訳『孤高の守護神 ゴールキーパー進化論』（白水社）
読者賞
矢野大輔 著『通訳日記 ザックジャパン1397日の記録』（文藝春秋）
2016年（第3回）
サッカー本大賞
下蘭昌記 著『ラストピース J2降格から三冠達成を果たしたガンバ大阪の軌跡』（KADOKAWA）
翻訳サッカー本大賞
ベン・リトルトン 著／実川元子 訳『PK ～最も簡単なはずのゴールはなぜ決まらないのか？～』（カンゼン）
読者賞
下蘭昌記 著『ラストピース J2降格から三冠達成を果たしたガンバ大阪の軌跡』（KADOKAWA）
2017年（第4回）
サッカー本大賞
能町みね子 著『「能町みね子のときめきサッカーうどんサポーター」、略して 能サポ』（講談社）
宇都宮徹壺 著『サッカーおくのほそ道 Jリーグを目指すクラブ 目指さないクラブ』（カンゼン）
翻訳サッカー本大賞
ヘンリー・ウインター 著／山中忍訳『夢と失望のスリー・ライオンズ イングランド救済探求の時間旅行』（ソル・メディア）
読者賞
伊藤壇 著『自分を開く技術』（本の雑誌社）
※司会 山本浩
2018年（第5回）
サッカー本大賞・読者賞
岩政大樹 著『PITCH LEVEL 例えば攻撃がうまくいかないとき改善する方法』（KKベストセラーズ）
翻訳サッカー本大賞
ディートリッヒ・シュルツェ＝マルメリンク 著／吉田奈保子、山内めぐみ 訳『マヌエル・ノイアー伝記』（実業之日本社）
※司会 倉敷保雄
2019年（第6回）
サッカー本大賞
津村記久子 著『デイス・イズ・ザ・デイ』（朝日新聞出版）
中村武彦、LeadOff Sports Marketing 著『MLSから学ぶスポーツマネジメント 躍進するアメリカサッカーを読み解く』（東洋館出版社）
翻訳サッカー本大賞
ジェームズ・モンタギュー 著／田邊雅之 翻訳『億万長者サッカークラブ サッカー界を支配する狂気のマネーゲーム』（カンゼン）
読者賞
ひぐらしひなつ 著『監督の異常な愛情 または私は如何にして心配するのをやめてこの稼業を・愛する・ようになったか』（内外出版社）
※司会 山本浩

2020年(第7回)
サッカー本大賞
豊福晋 著『欧州 旅するフットボール』(双葉社)
特別賞
マイケル・コックス 著／田邊雅之 翻訳『プレミアリーグ サッカー戦術進化論』(二見書房)
岡田武史 著『岡田メソッド――自立する選手、自律する組織をつくる16歳までのサッカー指導体系』(英治出版)
読者賞
菊原志郎・仲山進也 共著『サッカーとビジネスのプロが明かす育成の本質 才能が開花する環境のつくり方』(徳間書店)
優秀作品
大山高 著『海外のサッカーはなぜ巨大化したのか』(青娥書房) 内藤秀明 著『ようこそ! プレミアパブ』(三栄)
岩政大樹 著『FOOTBALL INTELLIGENCE フットボール・インテリジェンス 相手を見てサッカーをする』(カンゼン)
ロベルト・ロッシ・片野道郎 共著『サッカー“ココロとカラダ”研究所 イタリア人コーチと解き明かす、メンタル&フィジカル「11の謎」』(ソル・メディア)
結城康平 著『欧州サッカーの新解釈。ポジショナルプレーのすべて』(ソル・メディア)
エルマー・ネーヴェリング 著／鈴木良平 監修／大山雅也 翻訳『ユルゲン・クロップ 増補版 選手、クラブ、サポーターすべてに愛される名将の哲学』(イースト・プレス)
後藤健生 著『森保ジャパン 世界で勝つための条件: 日本代表監督論』(NHK出版)
※授賞式は中止。
2021年(第8回)
サッカー本大賞
アビー・ワンバック 著、寺尾まち子 翻訳『わたしはオオカミ 仲間と手をつなぎ、やりたいことをやり、なりたい自分になる』(海と月社)
キム・ホンビ 著、小山内園子 翻訳『女の答えはピッチにある 女子サッカーが私に教えてくれたこと』(白水社)
特別賞
西崎憲 著『ヘディングはおもに頭で』(KADOKAWA)
CB賞(クレイジーブーツ賞)
ピーター・クラウチ 著、村瀬隆宗 翻訳『クレイジーフットボーラーズ ピーター・クラウチが明かすプロサッカーの裏話』(イカロス出版)
読者賞
反町康治 著『RESPECT2 監督の挑戦と覚悟』(信濃毎日新聞社)
優秀作品
サッカー新聞エルゴラッソ編集部 著、編集、高田茂和 イラスト『おもしろサッカー世界図鑑スペイン編』(スクワッド)
ルカ・モドリッチ、ロベルト・マッテオーニ 著、長束恭行 翻訳『ルカ・モドリッチ自伝 マイゲーム』(東洋館出版社)
西部謙司 著『フットボールクラブ哲学図鑑』(カンゼン)
林舞輝 著『「サッカー」とは何か 戦術的ピリオダイゼーションvsバルセロナ構造主義、欧州最先端をリードする二大トレーニング理論』(ソル・メディア)
宇都宮徹壺 著『フットボール風土記 Jクラブが「ある土地」と「ない土地」の物語』(カンゼン)
リー・スコット 著、龍岡歩 監修、高野鉄平 翻訳『組織的カオスフットボール教典 ユルゲン・クロップが企てる攪乱と破壊』(カンゼン)
※オンライン開催。司会 井上マー